

## 教員紹介

臨床心理学専攻

» 教員データベース



### 向山 泰代 教授

心理学研究科長

研究分野	パーソナリティ / 自己認知
研究テーマ	性格や自己認知の分野での個人差や個性の表現を、性格記述語や写真などを素材として研究

人が自分や他者についてどのように考え、言葉や画像を使ってどのように表現するのか、それらをどう測定し記述するのに関心をもっています。例えば、性格検査の開発に携わったり、得られたデータをもとに性格の構造や対人関係における性格の機能を考えたりします。また、写真やインタビューでの語り、その人らしさがどう表現されるのか分析します。

(主な著書・論文)  
 単著「自叙写真法による自己認知の測定に関する研究」(ナカニシヤ出版、2010年) / 論文「自他の性格判定に使用可能な擬態語性格尺度の構成」(心理学研究 第83巻)82-90(日本心理学会、2012年)ほか

### 伊藤 一美 教授

研究分野	臨床発達心理学
研究テーマ	臨床心理学と発達心理学の2つに軸を置き、パーソナリティや家族関係について研究

幼児期に関して、家庭環境と学びとの関係について共同研究をしています。心理実践としては、統合的心理療法の立場をとり、家族をキーワードにひきこもり支援や医療現場での家族支援にも関わっています。論文指導では、家族関係や育児や青年期の不適応に関わるテーマを扱う大学院生の方が多いです。社会の変化も早いので、新しい研究方法や知見をともに学びつつ研究を進めています。

(主な著書・論文)  
 共著「思春期・青年期臨床心理学」(朝倉書店、2006年)ほか

### 尾崎 仁美 教授

研究分野	青年心理学 / 教育心理学
研究テーマ	大学生の学習意欲・学習成果に関する研究

大学生がどのように大学生生活を過ごし、どのように成長していくのかということに関心があり、学習意欲や授業への取り組み、大学生生活の過ごし方、卒業後の進路や将来展望などについて、質問紙を中心とした研究を行ってきました。最近では、大学生の成長や学習成果に影響する要因について、学年差や個人差を解明するため、縦断研究にも取り組んでいます。

(主な著書・論文)  
 論文「大学生のラーニングアウトカムに関連する要因の検討—大学2年生の調査結果から—」(京都ノートルダム女子大学研究紀要 第51号) 55-65(京都ノートルダム女子大学、2021年)ほか

### 薦田 未央 教授

研究分野	発達心理学 / 臨床発達心理学
研究テーマ	言語・社会性の発達および乳幼児期から児童期における発達支援の実践研究

人の生涯発達の基盤を育む幼児・児童期の言語や社会性の発達に関心があります。それらの研究知見に基づいた子どもの発達支援の実践、そして、子どもの支援には欠かせない親の認知支援も行っています。また、幼児・児童期の学びの基礎となる認知発達への影響要因についても研究し、保育や家庭支援の方法を検討しています。

(主な著書・論文)  
 共著「大学相談機関における子育て支援教室の意義」(研究紀要 プッシュケ 第20号)25-40(京都ノートルダム女子大学心理学科・研究科研究紀要、2021年)ほか

### 佐藤 睦子 教授

研究分野	臨床心理学 / 芸術療法
研究テーマ	クライアントに対して芸術療法を用いた心理的理解、様々な現場での他職種連携の在り方

芸術療法を用いた非言語的アプローチを研究しています。特に、雑誌を切り貼りする「コラージュ療法」という方法をよく使っています。精神科デイケアやがん患者さんのチャリティイベントなどでもコラージュ療法を行います。また、スクールカウンセラーの経験を通じて、学校だけでなく、医療・保健分野における他職種連携についても研究しています。

(主な著書・論文)  
 共著「スクールカウンセラーが果たす役割—成長支持的アプローチの重要性を通じて—」(京都ノートルダム女子大学研究紀要 第42号)67-78(京都ノートルダム女子大学、2012年)ほか

### 高井 直美 教授

研究分野	発達心理学
研究テーマ	言語・想像性・社会性の発達

乳幼児期の言語獲得、幼児同士の遊び、幼児期における「心の理論」、想像性の発達などをテーマとした、観察・実験・調査研究を行ってきました。最近では、子ども期から青年期にかけて「空想の友達」を作る経験が、青年のパーソナリティの形成とどのように関連するのかについて、調査研究を行っています。また共同研究で、家庭における親子の絵本との関わりが、幼児の発達にどのような影響を与えるかなどについても調べています。

(主な著書・論文)  
 論文「心の理論とふり遊びおよび言語発達との関連」(研究紀要 プッシュケ 第16号)25-35(京都ノートルダム女子大学心理学科・研究科研究紀要、2017年)ほか

### 松島 るみ 教授

研究分野	教育心理学
研究テーマ	学習者の自律的学習態度を規定する要因やその方法に関する研究

大学生の学習支援に有益な知見を得るため、自律的学習態度や授業遂行におよぼす授業要因および大学生生活の要因について横断的・縦断的に研究しています。また、事前学習・事後学習の活用方法や学習内容を構造化させる様な授業方法について関心があり、大学生の学習方略遂行や授業理解を深化させる方策を検討しています。

(主な著書・論文)  
 論文「Relationships between Identity Achievement and Academic Motivation」(Psychological Reports, 117, 217-229 (2015)) / 論文「講義型授業における事前・事後学習と学習方略・授業への興味・理解度の関連について」(京都ノートルダム女子大学研究紀要 第50号)17-29(京都ノートルダム女子大学、2020年)ほか

### 菊野 雄一郎 准教授

研究分野	認知心理学
研究テーマ	認知機能の生物学的基盤に関する研究

科学の進歩により、現在ではヒトのところが脳神経レベルのみならず、ホルモンや遺伝子レベルまで解明できるようになってきました。ヒトの認知機能(例えば、「分かる」ためのメカニズム)の個人差に関連する遺伝子やホルモンの同定に関心をもっています。また、各人のQuality Of Life(QOL)を高めるためにはどのような環境づくりが必要なのか、理論と応用をリンクさせながら日々研究を行っています。

(主な著書・論文)  
 単著「心理学実験のためのMATLAB」(工学社、2021年) / 論文「CHRNA4 gene is associated with rapid scene categorization performance」(Attention, Perception, & Psychophysics, 75 (7), 1427-1437, (2013)) ほか

### 空間 美智子 准教授

研究分野	臨床心理学 / 行動分析学
研究テーマ	セルフコントロールと衝動性についての基礎研究と、その知見を臨床場面に応用する実践研究

臨床心理学の中でも、特に、不適応の背景としての「衝動性」と「セルフコントロール」の問題に関心があり、その基礎的な研究、および、臨床場面での応用に取り組んでいます。研究対象は就学前の子どもから成人まで幅広く、その発達変化にも関心があります。最近では、「衝動性」と「セルフコントロール」との関連が目立っている「利己性」と「利他性」の問題について研究を始めています。

(主な著書・論文)  
 共著「セルフ・コントロールの心理学: 自己制御の基礎と教育・医療・矯正への応用」(北大路書房、2017年)ほか

### 下田 麻衣 講師

研究分野	社会心理学
研究テーマ	適応的 / 不適応的な自己制御過程に関する研究

日常でのさまざまな適応的 / 不適応的な自己制御過程に関心をもち研究に取り組んでいます。例えば、学業場面で人は誘惑にどのように対処しているのかについて、実験や調査を行い検討してきました。最近では、自分に不都合な情報を受け入れない等の自己防衛のための制御過程に関する実証研究を行っています。

(主な著書・論文)  
 論文「Self-Affirmation Enhances the Intention to Improve Physical Inactivity through Health Risk Messages」(The Japanese Journal of experimental social psychology, 61(1), 28-33, (2021)) ほか

### 仲倉 高広 講師

研究分野	臨床心理学
研究テーマ	HIV陽性者への心理療法の援助についての研究

HIV/AIDS患者さんの心理療法や心理アセスメントの実践とその研究に取り組んでいます。特に、病気やセクシュアル・マイノリティ、薬物依存など生き辛さを抱える方たちと一緒によい人生を歩むために、深層心理学的心理臨床は何かできるのかを考え続けています。そして、心理臨床の実践と教育・養成、研究をどのように関連づけるかが最近の関心事です。

(主な著書・論文)  
 共著「HIVと心理臨床 最新線からの報告—心理臨床の実践と課題、そしてあたたか展開に向けて—」(ナカニシヤ出版、2002年)ほか

### 中藤 信哉 講師

研究分野	臨床心理学 / 青年心理学
研究テーマ	心理的居場所に関する研究

自己と他者・社会との関係や、アイデンティティに関心があり、これまで、「居場所」という観点から研究を行ってきました。人が「居場所がない / ある」と感じるとき、場を構成する他者との間にはどのような関係が生じ、その体験が自己形成やアイデンティティにどう関わるのか、特に青年期を対象として臨床心理学の視点から質的研究を行っています。また心理臨床実践のなかで、「居場所」というテーマがどのように現れ、扱われるかについても、力動的な心理療法の視点から検討しています。

(主な著書・論文)  
 単著「心理臨床と「居場所」」(創元社、2017年)ほか

### 武藤 翔太 講師

研究分野	臨床心理学 / 心理(的)アセスメント
研究テーマ	心理検査のフィードバック / グループアプローチ

大規模病棟の単科精神科病院や精神科クリニック、大学の心理臨床センターなどで様々な臨床実践をしていく中で上記の研究テーマの必要性を感じ、実践と研究をしてきました。描画法に関する研究が多いですが、他の心理アセスメント法も専門としています。医療領域に限らず、他の領域の実践・研究も興味を持って学んでいます。臨床に生きる研究を自戒もこめて心がけています。

(主な著書・論文)  
 共編著「心理アセスメントの理論と実践—テスト・観察・面接の基礎から治療的活用まで」(岩崎学術出版社、2020年)ほか

